

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会をはじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者: 富樫幸信

作成日: 平成30年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 8

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	1	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「②学校における職業教育の特色は明確になっているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

これは、在学2年間における目標資格として介護職・介護業界で役立つ様々な資格を掲げているが、学生の中にはその資格の必要性・有用性を理解できず受験を拒む者がいるため、今以上に学生に対して職業教育の特色を明確に伝達し、得た知識が就職・就職後につながるという意識・意欲を高めるべきではないかとの視点による指摘事項である。

②今後の改善方策

上述の通り、学生の中には資格取得の有用性を理解できない者が見受けられるため、職業教育の一環として実際の介護業務においてどのように学習経験・知識が役立つのかを伝達することとする。試験の難度や学習時間の多さを目の当たりにし、学習意欲が低下することが多いため、意欲の高い入学直後の早い時期から学生だけでなく保護者に向けても介護業界の実情、資格取得の有用性を伝えるものとする。併せて、ホームページ等を通じて入学前から職業教育の特色を理解してもらうよう努める。

③特記事項

■項目①：「学校の理念・目的・育成人材像は定められているか」について

開校以来、学園統一の教育理念・目的として「早期大人化教育」・「学科の専門教育」の二つを掲げ日々学生指導に取り組んでいるところである。

一つ目の「早期大人化教育」とは、在学中の学園での教育を通して、社会の一形成者としての自覚を促し、精神的、経済的に独立し得る人材として育成すること、また、二つ目の「学科の専門教育」は、学園の実践的かつ専門的な職業教育、技術教育を通じて、介護福祉士を始め将来必要となる各種資格を取得すると共に、学生の希望する分野での就職の実現を図るということである。

これら二つの教育目標を具現化するために、「トライアングル教育」と命名した学園独自の教育プログラムに基づく指導を展開している。このトライアングル教育の根底にあるのは、「自己管理力の養成」とそれを土台とした成功体験の積み重ねによる「自尊心の向上」である。

また、従来より学園独自の学生手帳を用いた指導を行っているが、この手帳の活用法をマスターすることにより、前述の「自己管理力の養成」を図り、その結果として学生一人ひとりがこの手帳に定める入学目的を達成することを目指している。

■項目④：「学校の理念等が学生・保護者等に周知されているか」について

昨年の総括表にも記載したように、過去においては、保護者への紹介・説明が入学式や保護者向け就職ガイダンス等一部の場に限られているとの現状認識により、「やや不適切」との評価意見が挙げられたことがある。

その改善策として前年度より入学直後のタイミングで保護者ガイダンスを実施したところ、実に90%近くの保護者が参加された。

そこでは、弊校の教育理念を始め、トライアングル教育を中心とした教育システム、長期間におよぶ施設実習、就職指導と過去の実績その他2年間の学生生活に関すること等多岐に渡る事項について説明したが、どの保護者も熱心に聞き入り、その後の質疑応答も活発なやり取りが行われたところである。

弊校の教育理念を示す場としても、また、保護者とのコミュニケーションを図る場としてもプラスに機能したであろうというのが、執り行ってみての率直な感想である。

今年度においても同様の効果が発現するようこの取り組みを継続していくところである。

学生については前年度以前と同様、理事長講演、校長講演等の各講演、またはクラス内でのミニ研修を通じ、弊校の教育理念・目的を啓蒙する機会を多数設け、その浸透を図るものとする。

また、学園の教育システムの根幹を成す独自の教育システムである「トライアングル教育」の指導と日本介護福祉士会の定める倫理綱領をうまく融合させ、自己管理ができ、かつ、同綱領に定める「利用者本位の自立支援が可能となる専門的サービスの提供」ができる介護福祉士の育成・輩出を目指した指導を常に心掛けることとする。

従来より学生本人及び保護者以外の関係者のうち介護施設に関しては、実習巡回やカリキュラム編成委員会等を通じて、また、地域住民に関しては、ボランティア活動等を通じて教育理念・目的の浸透に努めているところである。なお、今年度においてはOB・OGを招き、自身の体験談を交え施設種別ごとの特徴を1週間(5施設)掛けて説明してもらうイベントを企画しているところである。卒業生と在校生との交流等新たなきっかけ作りとなるよう期待している。

自己点検・自己評価総括表

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

前々年度の評価にて、「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の項目に関して、「やや不適切」との意見が挙げられていた。これは、預り金の精算に関し、教材、研修等の担当が区々で、精算額確定までの事務手続きに煩雑さが認められることが原因であった。この改善方策として、前年度より継続して情報の一元化に努めてきたところであるが、ようやく情報の一元化ネットワーク上での情報集約が整い、現在では全ての教職員が当該情報を有効に活用できる状況へと改善がなされたところである。

また、前年度において「ほぼ適切」との回答ではあったが、「③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」の項目に関し、「意思決定を要する全ての事項について明確化されているわけではない。一部業務については意思決定者(部署)が不明瞭なため何処に判断を求めれば良いか苦慮するケースがある。」との意見が挙げられていた。この点に関しては、全てを文書等にて明文化することは困難ではあるものの、具体的に不明瞭な事項が生じた際に、都度意思決定者(部署)を定め、教職員へ周知することにより解消を図るよう取り組みしているところである。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①②③:運営方針・事業計画・規則等の策定について

昨年度以前と同様、学園の運営方針は学校長会議等を通じて適宜見直しと提言を図り、最終的には理事会での決議に基づき、その策定がなされている。また、事業計画は毎年度教職員自らが策定し、事業計画ごとに担当責任者を定め、その者を中心に計画の遂行に努めているところである。その遂行状況に関しては、毎月全体朝礼にて部署ごとの報告がなされ、全教職員への周知を図っている。

運営組織については毎年度見直しを図り、その結果を組織図として教職員へ配布することにより明確化を図っている。

■項目④:人事、給与に関する規程等の整備について

人事、給与に関する規定は、学園諸規則の中に「就業規則」、「給与規定」、「退職金規程」、「組織責任者規程」等として定め、教職員がネットワーク上にて必要に応じて自由に閲覧できる状態となっている。

■項目⑥:コンプライアンス体制の整備について

介護施設での実習に際し、事前に機密情報の保持や個人情報の保護に関する誓約書を交わす等、コンプライアンスについては最善の注意を払っているところである。

■項目⑦:教育活動等に関する情報公開について

学校の特色、学科の教育目標、合格実績、卒業後の進路、教育環境等の教育活動全般および学生への生活支援の状況、納付金・就学支援の状況等、広範にわたって過不足なくホームページを通して第三者へ公開している。

加えて、学校説明会や体験入学会の実施状況、開催予定等をツイッターやLINEなどのSNSを活用し、情報提供を行っているところである。

なお、昨年度において「SNSの更新頻度が落ちており注意が必要である」との指摘がなされていたが、全教職員が高い意識をもって更新するよう改め、イベントだけではなく日々の学内での生活の様子等もアップすることにより、ある程度の改善が認められたところである。今後もこの状態を継続するよう努める所存である。

自己点検・自己評価総括表

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	1	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	1	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」、「⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」については、昨年度においても「やや不適切」との評価があり、その改善のため「教職員相互の授業聴講」を年間1回は実施し、その評価・聴講結果を職員会議において検証すると定めたものの、その取り組みがなされなかったことへの指摘である。

また、「⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」については、学則上の進級・卒業要件に一部不明瞭な点があるのではないかと指摘に基づくものである。

自己点検・自己評価総括表

②今後の改善方策

「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」および「⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」の項目については、前回以前より継続して一部教職員より「やや不適切」との評価がなされているところである。

その改善のため、⑦については「上長による授業評価」および「教職員相互の授業聴講」をそれぞれ年間1回実施し、その評価・聴講結果を職員会議において検証する仕組みを構築すると掲げてきたが、前年度同様「上長による授業評価」とそれを受けての評価面談までに留まってしまった。

これは、新人教職員の入職に伴い当該教職員の講義指導等にマンパワーを割かれてしまい、「教職員相互の授業聴講」を行うまでの時間的な余裕が無かったことが主な原因である。

今年度こそは、「教職員相互の授業聴講」の実現が図れるよう、計画性を持った取り組みを行っていく所存である。

一方⑨については、現行の学則上では、進級・卒業に要する資格取得に関する具体的な規定が置かれておらず、資格取得にチャレンジする際の学生への動機付け等の指導上説得力を欠くところがあるとの指摘が挙げられたため、まずは教職員間での議論を深め、そのうえで学則変更等必要な手続きを取るものとする。

③特記事項

■項目①②③：教育課程の編成等の策定・教育到達レベル・学習時間の確保・カリキュラム編成について
教育課程の編成等については、定期的開催している教育課程編成委員会にて、弊社より教育理念や倫理綱領に沿った新たな試みを提案し、それに対する有識者からの意見や助言等を踏まえ教育課程の編成等を行うものとしている。

前々年度に引き続き前年度においても、学園の教育目標の一つである「学科の専門教育」の到達目標レベルとして『目指せ！3つのH(Hand《技術》、Head《知識》、Hart《価値・倫理》)』をその指針としてきた。これまで同様当該指針に基づきカリキュラム策定を行い、結果、国の定める基準以上の学習時間を確保し、全学生を国家試験合格レベルにまで到達させることができた。

ただし、もう一つの教育理念である「早期大人化教育」に関しては、現在のカリキュラムや教育システムでは、在学中の大人化が実現できていない面があるのではないかと指摘もあったため、今年度の課題の一つとして改善に努めるものとする。

■項目④⑤：キャリア教育・実践的な職業教育・業界との連携・実習について

前回の自己点検にて挙げられた1年次の実習前にビジネスマナーの重要性を理解させることが課題であるとの認識に基づき、ホームルーム等の時間を有効活用し、1年次実習時までにある程度のビジネスマナーを身につけさせたうえで実習先へ送り出すこととした。これに関しては、1年次実習を全員合格で終わられたことから、ある程度の効果が認められたのではないかと判断するところである。

また、学生の意識向上と業界との連携強化を図るため、昨年度同様、業界から講師を招き授業を実施した。ただ、現状として年に1回の実施に留まるため、今年度に関しては特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の施設種類ごとにOB・OGを招き卒業生の就業体験と共に各施設の特徴を掴んでもらうための説明会を企画している。学生の理解促進の一助となることを期待する。

■その他：教職員の資質向上・能力開発について

新人教員については「介護教員講習会」へ参加し、講師としての資格を取得すると共に、最新の介護技術や知識の習得に努めたところである。また、他の教員に関しては介護福祉士養成施設協会等が主催する研修等への参加を通じて介護技術や知識のブラッシュアップを行った。これらの教員研修は、今後も継続して行う予定である。

■その他：国家試験対策の強化について

昨年度より卒業生の全員が介護福祉士国家試験を受験する形となった。弊社としても初めての本格的な受験指導となったが、学生の努力が実を結び、全国合格率を上回る結果を残すことができた。

自己点検・自己評価総括表

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「②資格取得率の向上が図られているか」および「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

「②資格取得率の向上が図られているか」については、昨年度より介護福祉士試験の全員受験がスタートしたが、学力的に劣る学生たちのモチベーション維持が困難であったこと、および介護福祉士試験以外の他資格（福祉住環境コーディネーター等）の学習時間削減の結果、当該他資格の合格率が低迷したことに起因する評価である。

一方、「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」については、前年度までと同様、卒業生の職場での活躍状況等を把握するための情報収集が不足しているのではないかと懸念からの評価である。

②今後の改善方策

「②資格取得率の向上が図られているか」については、介護福祉士試験の全員合格を第一義としながらもカリキュラムを今一度見直し、無理と無駄を排除したうえで、福祉住環境コーディネーター等他資格への授業時間確保を目指すものとする。

また、最大の目標である介護福祉士試験においても、試験日当日までモチベーションの維持を図ることが困難な状況のなか、学生本人が必要性を理解できていない他資格取得に対するモチベーション維持はさらに困難である。今後は、資格取得・知識習得の必要性・有用性や弊校の教育理念である「早期大人化」を喚起する一つの材料として、指導に当たりたい。

「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」については、前述のように今年度より施設種類ごとにOB・OGを招いての就業体験談や施設説明会を企画しているため、それによりある程度の把握が可能となるであろうと考えるところである。

ただし、それだけで卒業生の活躍状況の全容を把握できるわけではないため、これまでと同様卒業生との接触の方法や機会に関しては、教育課程編成委員会でも助言をいただきながら、職員会議等にて議論を重ねていく予定である。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①：「就職率の向上が図られているか」について

開校以来継続して就職率100%を達成している。

担任や就職サポート室担当者を中心として、学生の性格・特質に合わせた細やかな指導を行い十分な就職対策を実施した結果であると自負している。

今年度においても就職後のミスマッチを極力回避する形での業界・施設研究等を行わせ、早期の100%達成を果たしたいところである。

■項目③：「退学率の低減が図られているか」について

昨年度においてもそれまでと同様、介護への志を持って入学したものの日々の学習や実習・演習を重ねるごとに自身の介護への適性に疑念を抱き、興味関心が薄れていく者が出た。しかし、担任を始めとする介護科全教職員による声掛けとこまめな面談(場合によっては保護者を含めた三者面談)を行うと共に学習以外の面で学校生活の楽しさを演出する等の工夫により退学を思い留まった者もあり、その点は指導の成果が伺えるところである。ただし、そのような工夫を凝らしても退学者が0となるわけではないため、今年度においても退学者0を念頭にきめ細やかな学生指導を心掛けていく所存である。

■項目⑤：「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」について

上述の通り、卒業生全員のキャリア形成への効果は把握できていないのが実情である。

ここまで繰り返し述べている卒業生による就業体験談のような企画を更に増やし、タイムリーに在校生へ情報発信することにより、教育内容へ反映させたいと考えている。

自己点検・自己評価総括表

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切 8	ほぼ適切 0	やや不適切 0	不適切 0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切 7	ほぼ適切 1	やや不適切 0	不適切 0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切 8	ほぼ適切 0	やや不適切 0	不適切 0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切 7	ほぼ適切 1	やや不適切 0	不適切 0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切 8	ほぼ適切 0	やや不適切 0	不適切 0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切 7	ほぼ適切 1	やや不適切 0	不適切 0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切 7	ほぼ適切 1	やや不適切 0	不適切 0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切 1	ほぼ適切 7	やや不適切 0	不適切 0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切 7	ほぼ適切 1	やや不適切 0	不適切 0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切 4	ほぼ適切 3	やや不適切 1	不適切 0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

これは、一昨年度まで継続して行われてきた地元福祉科の高校生への入浴体験授業が行われなかったことに対する指摘である。

②今後の改善方策

昨年度は残念ながら高校福祉科の入浴体験授業を執り行うことができなかった。今年度においては企画広報室との連携を密にし、多くの高校生に向けて介護職の現状と将来性、また、職業としての魅力とやりがいを伝えていきたいと考えている。

その他前回評価時にも掲げたことではあるが、引き続き高校生を対象とした演習形式の公開講座の開催を検討し、介護福祉業界の現状と日本の将来などの社会問題を考える場を提供したいところである。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

■項目①：進路・就職に関する支援体制の整備について

就職サポート室と担任・部署責任者が連携し、学生への求人情報提供や筆記・面接・論文を想定した就職試験対策を実施している。また、学生向け及び保護者向けの就職ガイダンスを開催し、就職活動関連情報や具体的な活動の流れなどを説明している。

その他リクルートファッションセミナー、メイクアップセミナー等就職関連のイベントも充実しており、そのことが就職実績の一つの支えになっているものと自負するところである。

■項目②：学生相談に関する体制の整備について

近年、学校生活・人間関係・家庭事情等々、多少なりとも不安を抱えている学生が増加していることは事実である。そうした精神的負担等が要因となって、学習意欲・登校意欲が低下してしまわないよう、担任が中心となり定期的な個別面談を実施している。全学生対象の定期面談を実施したのち、必要に応じ、個別面談や責任者による面談を実施するなど、学生相談に応じる体制が整備されている。

■項目③：経済的な支援体制について

昨年度においては1年生、2年生ともに半数程度の学生について日本学生支援機構を始め静岡県や民間企業による奨学金の利用実績が認められるところである。それら制度の多くが卒業後、一定期間介護の職に従事することにより返済が免除される仕組みとなっており、介護業界への就職を考えている者にとっては利用しやすい制度になっているものと思われる。

■項目④：健康管理を担う組織体制について

介護科教員の中に看護師資格を有する者が複数いることから、健康面に関するケアについては、学生からも信頼を得ているものと自負している。

■項目⑤：課外活動に対する支援体制の整備について

ボランティア活動や部活動、研修旅行やスポーツフェスティバル(体育祭)など、各種の課外活動を行っている。その際の学生への情報提供や活動場所の確保・練習中の指導など、支援体制は整備されている。

■項目⑦：保護者との適切な連携について

入学当初から、学校と家庭が協力して学生の教育を行うという指針を保護者に伝達しており、遅刻・欠席・生活態度等に問題が見られる場合には、早急に保護者へ連絡するなどの連携がとられている。

また、成績表送付、保護者ガイダンス、学年通信の発行により、学生の様子を保護者に伝える機会を設けている。

■項目⑧：卒業生への支援体制について

「やや不適切」の評価は無かったものの、卒業後自発的に来校する者については支援ができていたが、学校へのアプローチのない者については、殆ど支援できていないのが現状であるとの意見が挙げられた。今後の課題として捉えていきたい。

自己点検・自己評価総括表

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

その他前回評価時と同様であるが、実践的な防災訓練の実施が必要であるとの認識はあったが、実現するに至らなかったことは課題である。

②今後の改善方策

昨年度においてもそれ以前と同様、何度か交渉を試みたものの避難場所となる小学校利用の理解が得られず、実施を断念した経緯がある。

今年度は避難場所小学校との交渉を継続すると共に、4月において1年生・2年生共に校内避難経路および災害時避難経路(弊社から避難場所となる小学校まで)の確認を行う予定である。

③特記事項

■項目①：施設・設備の整備について

開校以来全学生にiPadを提供し、それを活用した授業に取り組んでおり、校舎全館で無線LANを使用できる環境を整えている。

それによりテキスト、問題集その他配布物の一部については、ネットワーク活用により一斉配信の形を取り、ペーパーレス化を推し進めている。また、学習用資料をインターネットにて即時検索することが可能であることから、学習効率の向上に寄与している。

また、社会人や大学生向けの講座(座学)については、専用教室を設け個別のブースにてビデオ・オン・デマンド形式での受講が提供されている。

■項目②：学内外の実習施設、インターンシップ等の教育体制の整備について

現在、2年間で3回の介護施設実習を実施している。さらに学外実習施設との新規契約を増やし対応しているところである。

他の教育機関との差別化を図るためにも、国際福祉機器展への参加など学外研修の機会を設けることを検討する。

■項目③：防災に対する体制の整備について

現在、消防計画、防災計画は立てられているが、実際の訓練が行われていない状況である。上述の通り、地域との連携を図り、実践的な避難訓練を実現できるよう検討していく。

自己点検・自己評価総括表

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

③特記事項

■項目①②:適正な学生募集活動、正確な教育成果の伝達について

学生募集に関しては、行政の指導に従い適切な対応を心掛けている。

そのための案内書を毎年度早期に作成し、弊校を志願する生徒・保護者に対し、募集要項をはじめ、説明会や体験入学会などのイベント情報、入学者選抜(一般・推薦・AO・高卒者特別入学)に関する事項その他志願者が必要とする情報を漏れなく提供しているところである。

また、案内書、ホームページ、体験入学会や学校説明会等を通じて国家試験合格率、就職率や就職先等弊校の教育成果を正確に伝えている。

その他、出入国管理及び難民認定法の改正により、在留資格に「介護」が創設されたことから、日本語学校とのパイプをつくり外国人留学生の受け入れを本格化していく予定である。

■項目③:学納金の妥当性について

学納金の妥当性については問題ないものと自負している。

なお、研修教材費として預かっている金額が実費と比べ相当少額であったため(差額は弊社負担としてきた)、平成31年度入学者より預り金を実費に近づけるよう、改定を予定している。

自己点検・自己評価総括表

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。「④財務情報公開」は継続して実施する。

②今後の改善方策

財務情報の公開も整備され、財務状態については現状問題がないと認識している。

③特記事項

■項目①②:財務基盤の安定性、予算・収支計画の有効性・妥当性について

毎年度、事業計画を反映した資金収支予算・消費収支予算が組まれており、理事会・評議員会等での必要な手続きを経て予算が承認されている。

■項目③④:適切な会計監査、財務情報公開の体制整備について

会計処理は学校法人会計基準に準拠した処理が行われ財務計算に関する書類を適正に作成し、他の学校情報と共に学園ホームページ上に公開しており、いつでも閲覧できる状況になっている。その財務内容は長期にわたり収支の均衡がとれ、財務の健全性が維持されているものと判断している。

自己点検・自己評価総括表

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

個人情報保護に関しては、対策がとられ体制も整備されているが、教職員の意識に差異が見受けられるため、常に意識向上を図る必要がある。

②今後の改善方策

全教職員が、個人情報保護の必要性・重要性を常に意識し、個人情報保護法に基づく学内の個人情報保護規則を遵守する。

なお、一部教職員より現行の学内ネットワーク上での運用方法に対して、さらなる安全性向上を図るべきではないかとの指摘がされたため、その運用に関する見直しを図る予定である。

③特記事項

■項目③④：自己評価の実施と問題点の改善、自己評価結果の公開について

学園を挙げて関係諸法令の遵守に努めている。

自己評価の実施とその公開も行われており、また問題点の把握・情報共有と改善を図るための会議を実施しているため、現状この点に関する問題はないと認識している。

自己評価の実施と問題点の改善については、以下の流れにより毎年第三者への公開をしているところである。

- ①毎年度末に所属の教職員全員が個々に自己評価を実施
- ②評価結果として挙げられた問題点とその改善策に関する職員会議を行い当該年度を総括する
- ③翌年度当初に総括と併せ自己評価結果を学園ホームページを通じて公開

自己点検・自己評価総括表

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

③特記事項

■項目①：施設を利用した社会貢献等について

学生支援の一方策として、また、地域に根ざした社会活動の一環として、一昨年より地元沼津の祭典「よさこい東海道」に沼津2校の学生、教職員約30名が参加してきた。ほぼ全員がよさこい初心者ではあったが、振り付け等、地元自治会に指導を仰ぎ、無事にイベント当日を迎えてきたところである。当該イベントへの参加を通じ、学生の自主性・積極性の向上と地域との密着を図ることができたと感じている。今年度においても学生への参加を呼び掛け、祭典参加を実現したいところである。

■項目②：ボランティア活動の奨励・支援について

昨年度同様、学内他校との協力により、ボランティア活動の場を広げ、全ての学生が支障なく参加できる体制作りを進めていく。
加えて、学内施設の利用・提供を前提とした弊社主催のイベントを企画運営するなど、更なる社会貢献、地域貢献を心掛ける。

■項目③：公開講座・教育訓練について

学内施設と教育ノウハウを活用し、社会人に対して介護福祉士や介護職員初任者研修に関する講座を開講している。
専門課程の授業が行われない週末等を利用した「附帯教育」として実施し、資格取得や就職転職を目指す方々をサポートしている。
今年度は取り分け実務者研修の開講に尽力していく予定である。

また、人間学を学ぶ場としての公開講座(人間学読書会)の開催や公共職業訓練の受託、地元商店街や自治会との連携による学生のボランティア活動の奨励、介護施設開催の運動会等のレクリエーションイベントへの参加などの取り組みも行っている。